

第5回 あま市小中学校あり方検討委員会 会議録（大要）

開催日時	令和5年9月13日（水）午前10時00分～午前11時15分
開催場所	あま市役所 2階 F会議室
出席委員	1 委員長 山田 貞二（岐阜聖徳学園大学准教授） 2 委員 溝口 紘（有識者） 3 委員 石原 良子（あま市立美和小学校校長） 4 委員 横田 健司（あま市立七宝北中学校校長） 5 委員 山本 正子（あま市保育園保育士長） 6 委員 林 弘樹（宝学園（中川幼稚園）理事長） 7 委員 佐藤 明美（保護者） 8 委員 古川 式規（総務部次長兼財政課長） 9 委員 室田 裕貴（企画政策課長）
欠席委員	欠席 副委員長 小林 優太（愛知教育大学非常勤講師） 欠席 委員 林 一史（保育課長）
事務局	1 伊藤教育長 2 鎌倉教育部長 3 加藤教育次長 4 徳永教育総務課長 5 寺澤学校教育課長 6 内山生涯学習課長 7 大堀スポーツ課長 8 水野指導主事主幹 9 石川教育総務課主幹 10 書記野々目課長補佐
傍聴人	0人
議事日程	(1) 委員の紹介（人事異動による） (2) あま市小中学校あり方検討委員会報告書（案）について その他

発言者	議事の概要												
山田委員長	<p style="text-align: right;">【開会時刻 午前10時00分】</p> <p>定刻となりました。          本日はお忙しいところ、ご出席いただきありがとうございます。それでは、ただいまより第5回あま市小中学校あり方検討委員会を始めさせていただきます。</p>												
山田委員長	(挨拶)												
山田委員長	最初に本日の資料の確認を事務局にお願いします。												
教育総務課長	<p>本日の資料の確認をお願いします。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">1 次第</td> <td style="width: 10%; text-align: right;">A 4</td> <td style="width: 10%; text-align: right;">1 枚</td> </tr> <tr> <td>2 委員名簿（令和5年4月1日現在）</td> <td style="text-align: right;">A 4</td> <td style="text-align: right;">1 枚</td> </tr> <tr> <td>3 あま市小中学校あり方検討委員会報告書（案）</td> <td style="text-align: right;">A 4</td> <td style="text-align: right;">1 部</td> </tr> <tr> <td>4 ご意見聴取用資料</td> <td style="text-align: right;">A 4</td> <td style="text-align: right;">1 枚</td> </tr> </table> <p>以上です。</p>	1 次第	A 4	1 枚	2 委員名簿（令和5年4月1日現在）	A 4	1 枚	3 あま市小中学校あり方検討委員会報告書（案）	A 4	1 部	4 ご意見聴取用資料	A 4	1 枚
1 次第	A 4	1 枚											
2 委員名簿（令和5年4月1日現在）	A 4	1 枚											
3 あま市小中学校あり方検討委員会報告書（案）	A 4	1 部											
4 ご意見聴取用資料	A 4	1 枚											
山田委員長	市教育委員会を代表しまして、教育長よりご挨拶をお願いします。												
教育長	(挨拶)												
山田委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>本委員会の議事録の概要を市ホームページで公開するため、事務局が委員会の内容を録音させていただきますので、ご承知おきください。</p>												
山田委員長	<p>それでは、「議題（1）委員の紹介（人事異動による）」に入ります。</p> <p>今回から参加される新しい委員の方々及び事務局の方々には、一言ずつ自己紹介をお願いします。</p> <p>まずは委員の紹介を事務局をお願いします。</p>												
教育総務課長	<p>市内小学校校長代表として、昨年度は宝小学校長の加藤万佐子（カトウ マサコ）委員でしたが、今年度は美和小学校長の石原良子（イシハラ ヨシコ）委員となります。</p> <p>市内中学校校長代表として、昨年度は甚目寺南中学校長の安江利成（ヤスエ トシナリ）委員でしたが、今年度は七宝北中学校長の横田健司（ヨコタ ケンジ）委員となります。</p> <p>あま市保育園保育士長での委員が、昨年度は溝口由紀江（ミゾグチ ユキエ）委員でしたが、今年度は山本正子（ヤマモト マサコ）委員となります。</p> <p>市役所職員の委員のお二人が、人事異動で変更となりました。</p> <p>また、事務局も人事異動がありました。</p> <p>詳しくは、お手元の委員名簿令和5年4月1日現在をご覧ください。</p> <p>以上です。</p>												
石原委員	(自己紹介)												
横田委員	(自己紹介)												
室田委員	(自己紹介)												
山本委員	(自己紹介)												
事務局 加藤次長	(自己紹介)												

事務局 石川主幹	(自己紹介)
山田委員長	それでは、「議題（２）あま市小中学校あり方検討委員会報告書（案）について」に入ります。事務局説明をお願いします。
教育総務課長	<p>前回まで４回の委員会で、６つのテーマについてご意見をいただきました。</p> <p>まず、申し上げなければならないことは、委員会として無理に一つの意見に取りまとめなければならないわけではない、ということです。</p> <p>ただし、今までの皆様からいただいたご意見としては、概ね方向性としては同じ方向を向いているのではないかと思います。</p> <p>今までいただいたご意見を、ご検討のたたき台として報告書（案）としてみましたので、その案をベースにご意見をいただければと思います。</p> <p>今回ご提示させていただいている案について担当から説明をさせていただきます。</p>
書記	<p>ご説明します。</p> <p>事前にお送りさせていただいた案と机の上にご用意した案は同じものです。報告書案をご覧ください。</p> <p>１ ページ目は表紙です。</p> <p>２ ページ目から９ページ目までは、あり方検討委員会についての説明です。これらの文章は、第１回や第２回に資料としてお渡ししたのから写したものが大半です。</p> <p>ご意見をいただいたテーマは、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>１ 小規模校と大規模校について</li> <li>２ 小中一貫校について</li> <li>３ 施設等の共有化・複合化について</li> <li>４ これからの学校・学校と学校・学校と地域のあり方について       <ol style="list-style-type: none"> <li>①学校と家庭と地域のあり方</li> <li>②学校間交流のあり方</li> <li>③特別支援教育における学校のあり方</li> </ol> </li> <li>５ ＩＣＴ利活用について</li> <li>６ 働く場としての学校       <ol style="list-style-type: none"> <li>①教職員の働き方改革について</li> <li>②部活動のアウトソーシングについて</li> </ol> </li> </ol> <p>でした。</p> <p>１０ページ目が、報告の本体となるところです。</p> <p>６つのテーマごとに、皆様から頂いたご意見について方向性としてこのような内容かという形で記載させていただきました。</p> <p>内容については、ご覧のとおりです。</p> <p>１１ページ目以降は、資料編という形で、具体的に皆様からいただいたご意見を列挙させていただいている部分と、最後に委員会要綱をのせました。</p> <p>以上です。</p>

山田委員長	ありがとうございました。
山田委員長	先ほども事務局が言いましたように、無理に一つの意見に統合する必要はありません。皆さんのご意見をいただくことが大きな狙いとなっています。お一人ずつ、何番のテーマについてご意見を追加したり、削除したり、修正したりといったことをご質問含めておっしゃってください。
溝口委員	(全) この報告書に書いてあるとおりでであると思う。 (2) 小中一貫校について 義務教育学校に向けてやっていくことは、大事だと思うし、そうすべきだと私も思いますが、いきなり義務教育学校に持っていくのか、その前に小中一貫校として併設型として設置し、その後に義務教育学校とした方が良いのではないか。
山田委員長	義務教育学校と決定したわけではなく、これから議論していく内容であると思います。 一か所に設置するのか、併設型とするのか、これから議論が進んでいくものと思います。
石原委員	(1) 小規模校と大規模校について 小規模校では、コミュニケーション能力の発達について、成長しにくい印象を持っている。うまく言葉で伝えられないので、手が出てしまうという子もいる。児童数が少なすぎる場合は、人間関係が固定してしまうと考えます。 (2) 小中一貫校について 小中一貫校によって少しでも幅広く、人数も多く、子どもたちが関りを持てる場が作られることは良いことだと思います。 ただし、地域の方々は学校をととても愛してくださっています。とても大事なことで、そのことを考えながらも、子どもたちには人と人の関りであったり、人間関係であったりも大切です。学校は、小さな社会であると言われていています。保育園や幼稚園でも経験するものの、子どもたちにとっては、ほとんど初めてに近い大人数との関りあいの場となるのが学校です。義務教育は、そのような人と人が関わる力も養う場でもあります。子どもたちのために、そのような場を広げていくということを丁寧に説明をしながら進めて行くことが大事だと思います。
山田委員長	効果は期待できるけれど、地域の思いも大事にしながら進めていってほしいというご意見をいただきました。ここが一番難しいところでもあります。 先進事例をみると、小中一貫校による効果は確かにあることが分かります。そのことを丁寧に説明しながら理解していただくことが大切であると思います。
横田委員	(1) 小規模校と大規模校について 小規模校には小規模校のメリットがあります。職員と生徒との人数比率として、比較して一人当たりの職員が対応する生徒の数が少なくなることから、より手厚くすることができます。 七宝北中学校通学制度により、本来の学区である中学校ではなく、七宝北中学校を選択して通学している生徒がいます。その生徒の保護者から聞こえる意見としては、学級の中に人数が少ないことから、より手厚

	<p>く見てもらえ、落ち着いた環境で学ぶことができるというものです。</p> <p>一方で小規模校のデメリットはあります。ここ数年、私が感じているのは、デメリットの比重が大きくなってきているというものです。コロナ禍のせいもあるかもしれませんが、コミュニケーションや人との付き合い方が、小規模校では狭くなってしまっているので、少し友達と仲たがいしたら、学校へ行くのが嫌だと、休みがちになってしまう例も見られます。</p> <p>小中一貫校や義務教育学校は、一学年の人数は変わらないかもしれませんが、異学年の交流を行いやすく、人間関係を少しでも幅広くもつことができるのではないかと期待します。</p> <p>(2) 小中一貫校について</p> <p>他市町の例を聞くと、学校の統廃合や小中一貫校の設立は、とても難しいとも聞きます。七宝北中学校通学制度を始めるにあたって、とても苦労されたとお聞きしています。どのように話を進めるのか、しっかりと検討していただけたらと思います。</p> <p>(6) 働く場としての学校について</p> <p>働き方改革と言われて久しいです。ICT の活用や部活動の地域移行について、様々な施策を進めていただいています。子ども同士の人と人の関わりと同じように、職員と子どもの関わりも大事だと思います。</p> <p>七宝北中学校の例で言うと、施設は他の大規模校と同じなのに、職員や生徒数が少ないため、環境整備などに苦慮しています。</p>
山田委員長	<p>小中一貫校について、なかなか地元の理解を得ることは難しいですが、子どもたちのコミュニケーション能力の発達には効果があると思います。</p> <p>神奈川県の上野原町というところでは、小学校3つ中学校2つがあるのですが、ハコモノは作らず、それぞれの小中学校はそのままに、校長もそれぞれに在りのまま、全体として「にのみや学園」という枠組みを作って、併設型で小中一貫教育を実施しています。統一して教育活動を行ったり、職員の交流を行ったりしています。</p> <p>小中一貫教育といっても、いろんな形が考えられます。</p> <p>ハコモノを作るにしても、小中混ぜているところ、分けているところと、まちまちです。地域の特性に合った方法を見つけることが必要であると思います。</p>
林委員	<p>(全) 基本的に過不足無いと思います。</p> <p>(2) 小中一貫校について</p> <p>特に昨年あたりから、園児数が減っているという話を他の幼稚園でよく聞くようになりました。人気のある名古屋市東部の園でも聞きます。ある幼稚園では園児が100人減ったという話も聞きました。幸いに私の園では、そこまでの園児の減少はありませんでした。しかし、ちょうど今の時期は、来年度の新入園児の願書を配布している時期なのですが、今年になって入園願書の配布枚数がとても少なくなっています。少子化</p>

	<p>の印象を強く感じているところです。</p> <p>私自身、七宝小学校、七宝中学校を卒業しました。その後、町を離れずいぶんたってから再び戻ってきたのですが、特に七宝地区が昔と比べて全然発展していない印象を持っています。むしろ、昔と比べて衰退すらしているのではないかとの印象もあります。そのような中、小中一貫校に移行するという選択肢は、正しいものであると感じます。</p> <p>現在の案では、七宝北中学校、宝小学校と秋竹小学校を合体し、とありますが、七宝中学校、七宝小学校、伊福小学校はこの後どうなっていくんだろうかと思えてきます。今回の報告書を見た七宝地区の住民は、そのような見かたをするのではないかと思います。</p> <p>(3) 施設等の共有化・複合化について</p> <p>私の幼稚園は、もともと定員が450名以上で設定された園で、各施設がとても大きいです。毎年、除草作業だけでもかなりの費用を要します。施設の大きさや数は、労力や費用に反映してきます。施設の共有化や複合化は必要なことであると身をもって感じているところです。</p>
山田委員長	<p>貴重なご意見をいただきました。そのあたりを反映させた報告書とできると良いと思います。</p> <p>財政的及び効率化としての動機も大きいと思います。</p> <p>少子化についてのご意見は、とてもびっくりさせられるものでした。</p>
佐藤委員	<p>(全) 全体を通しては、賛成できるものです。</p> <p>(2) 小中一貫校について</p> <p>伝統と歴史のある学校です。今後、不確定な情報だけが先に出て独り歩きして、子どもたち、親御さんや地域の方が心配や、不安な思いをすることが無いように、ご理解いただくよう進めていっていただきたいと思います。</p> <p>(4) これからの学校・学校と学校・学校と地域のあり方について</p> <p>コーディネーターさん、学校運営協議会さんについてです。実際に経験したり、体験したりすることは子どもたちにとって大切なことであると思います。コーディネーターさんの今後の活躍を期待します。また、外部の方が学校に入られることで、先生方の負担軽減につながるよう進めて行っていただきたいと思います。</p>
山田委員長	<p>学校運営協議会やコーディネーターの方の役割は大きいと思います。</p> <p>本年度の学校運営協議会やコーディネーターの活用はどのような状況でしょうか。</p>
教育総務課長	<p>学校毎に活用の差があります。</p> <p>どの学校の学校運営協議会にもコーディネーターさんに入っています。</p>
溝口委員	<p>私は、地元の学校の学校運営協議会に関わらせていただいています。</p> <p>現実問題として、学校運営協議会に関わっている方々でさえ、コーディネーターさんの役割が十分にご理解いただけていないと感じていま</p>

	<p>す。制度が始まる時に、お知らせはもらいました。しかし、どこまでお願いしていいものか、どんなことをお願いしていいものか、私自身も理解できていない状況であると言えます。</p> <p>学校運営協議会の中では、校長先生はいろいろな説明をしてくださっていますし、校長先生の運営方針に基づいてお手伝いしていきたいと思いつつも、なかなか委員からの意見は出にくい様子です。コーディネーターさんが、学校運営協議会の中でどのような立ち位置でどのような役割で関わってくださるものか、理解しきれていないというのが本音です。</p>
生涯学習課長	<p>コーディネーターは、地域学校協働本部に所属しています。</p> <p>校長先生や学校運営協議会から、地域のボランティアの方に入っていたきたいことがある時に、学校運営協議会と地域のボランティアをつなぐコーディネートをすることとなっています。</p>
山田委員長	<p>学校運営協議会と地域学校協働本部はつながっていかなくてはならない役割であると思います。その間にコーディネーターがいて、学校運営協議会で困っていること、決まったことがコーディネーターによって地域とつながっていくのが、理想的な姿であると思います。</p> <p>そうすると、コーディネーターの役割はとても大きいと思います。</p> <p>ただ、コーディネーターだけでなく、学校運営協議会の方から地域にどんどん働きかけることも、もちろん大事だと思います。</p> <p>その一歩を踏み出せるかどうかの時にコーディネーターが窓口として大きな役割を担って下さると良いと思います。</p> <p>学校によって、状況は大きく違うと思いますが、これからのあま市の学校運営協議会の課題かと思っています。</p> <p>ちょうど、せっかく校長先生がお二人いらっしゃっているので、それぞれの学校での状況をお聞きしたいと思っています。</p>
石原委員	<p>わが校では、年に3回、学校運営協議会を開催しています。</p> <p>その際に学校運営に係るご協力いただきたい取組などを話しています。ご協力いただいているものとしては、読み聞かせがあります。読み聞かせは、毎週行っていただいています。読み聞かせをしていただいているボランティアの方は、保護者の方が多いですが、地域の方のグループにも行っていただいています。</p> <p>コロナ禍中は行えていみせませんが、小学校低学年向けにお手玉やけん玉などの昔の遊びを地域のおじいちゃん、おばあちゃんから教えていただいています。昔遊びは、クラブ活動でも行っていますので、クラブ活動の時間にもボランティアの方に来ていただいています。また、中・高学年では、そろばんを教えていただいています。</p> <p>それら教えていただく方をコーディネーターさんにご紹介いただいています。</p> <p>そういった取組を広げて行って、コーディネーターさんや地域の方に学校で活躍していただきたいと考えています。</p>

横田委員	<p>学校毎にやり方や捉え方が違う現状があります。</p> <p>あま市での学校運営協議会が立ち上がるというときにも、私は現在の学校の校長でした。学校と一緒に盛り上げていこう、作っていこうというものであると理解しています。</p> <p>当初、私が想定していたのは、学校環境を整えていくのにお力を借りようというものでした。除草作業にも地域の方を含めて70名ほどの方が関わってくださって、たいへん有意義であったと思います。しかし、それらの打合せや事務作業や調整等は、学校職員が担っていました。学校運営協議会の意義の一つとして、教職員の事務作業等の負担を軽減して、より生徒と触れ合う時間を確保するというものがあると思いますが、その活動によって学校の職員の事務負担が増大することは、目的からすると違ってきてしまうなど感想を覚えました。</p> <p>その後、コロナ禍もあり、一堂に会して何かをするということは避けられてきています。</p> <p>コロナ禍もピークを過ぎ、再びどうかという話もあるのですが、私としては教職員の負担が増すことに抵抗を感じています。</p> <p>現在は、学校運営協議会の方々もそれぞれの得意分野がありますので、それぞれの得意分野に応じた協力を少しずつ継続的にしていただく方向で考えています。例えば、花壇の整備をしていただいている方からは、一年中、今はこのような花があるなど苗の提供をしていただき、管理もしていただいている、大変助かっています。</p> <p>また、防災関係に明るい方もいらっしゃって、昨年度に学校で防災テントの設営実習を行ったときには、ご協力いただきました。</p> <p>大々的なイベントを行うというよりは、学校運営の中で、ちょっとこの辺りに力をお借りして一緒にやれたらなという所で、学校運営協議会などにお声がけさせていただいて、一緒にやっていただくというのが、今の私の考える理想の形です。</p> <p>コーディネーターさんとはお話をさせていただいていて、お力をお借りしているところですが、十分制度を活用できているのかというと、そうではないようにも思います。</p> <p>学校、地域、コーディネーターさんが、お互いに無理のない活動を学校運営の両輪として続けていければと思います。</p>
山田委員長	<p>佐藤委員さんから、保護者、地域の方として、学校運営協議会での活動についてご意見いただけますか。</p>
佐藤委員	<p>地域の企業として、弊社は職場体験学習、社会見学、工場見学、出前授業などをお受けさせていただいています。</p> <p>コロナ禍で、そういったことが無くなっていた期間は、学校が閉ざされてしまったなという印象をもちました。</p> <p>今年に入って、再び学校さんから、お願いしますとご依頼いただくことが増えてきました。</p> <p>お子さん方に、様々な体験を提供することは、良いことだと思っています。今までやってきたから、再開しなければならないということではないと思いますので、それぞれの学校さんのカリキュラムやご都合に沿</p>

	<p>って、無理のない程度に、ぜひ活用していただけると良いと思います。</p>
山田委員長	<p>今までのご意見の中で、ない視点が一つあります。  地域へ子どもたちが出ていくという部分です。  地域エージェンシーというのですが、学校に地域が来てもらうばかりではなく、地域の活動に学校から子どもたちが出て行って、子どもたちを使っただけというものです。  地域が子どもたちを巻き込んでいくというのが、ポイントです。  他地区の沖縄県の例では、不登校の子が学校に行くことはできないけれど、地域のエイサーの踊りの活動には毎日行くことができているというものがあります。エイサーの踊りの活動を通じて、その子は生きる力を養っていくことができたというものです。また、その活動を通じて、他の子どもとつながっていくこともできました。  地域が子どもの受け皿となった事例です。  他の例では、地域のお祭りの運営に子どもたちが参画して、普段学校では、大きく活躍できない子が、お祭りでは活躍できたというものもあります。  地域が主体性を持つこと、地域エージェンシーと言いますが、地域も子どもたちを育てていかないといけないと思います。全てを学校へ、学校へとしてしまうと、学校の負担が増すばかりですので、地域も子どもたちを育てる力をつけることが大切であると考えます。  それができると、学校運営も学校運営協議会も、様々なことがうまく動き始めるのではないかと考えます。  コーディネーターさんは、双方向のつながりを持つと良いと思います。  地域でもいろいろなことをやっていく、地域の力をつけていくことも、合わせて進めて行かなくてはならないと考えます。  その時には、主任児童委員、民生委員の方々の活用が重要であると考えます。私が主任児童委員の研修を依頼された時には、この話をします。学校に年に何回か行って様子を見るだけでなく、地域で子どもたちを守っていくという取組も必要であると思います。  学校と地域の双方向での取組についての視点が報告書に反映されると良いかなと思います。</p>
溝口委員	<p>私は、地域のコミュニティ活動を行っています。今年の夏祭りの運営に中学生の生徒さんが来てくれました。来てくれた生徒さんは一人ではありませんが、大変うれしかったです。  地域の住民である私たちが、もっともっと学校を応援するという気持ちを持つことが必要だと思います。地域の住民がそういう気持ちを持つように、行政からももっと言っていただければと思います。  例えば、自治会に対して。自治会の区長さんが、学校へ協力していこうという気持ちをもって下されば、コミュニティから学校へ協力できることも増えると思います。</p>
山田委員長	<p>地域の力が果たす役割は大きいと思います。</p>

	<p>地域で防災訓練をする時に小中学生も一緒にやるだとか、避難所設営時の体験をしてみるとか、学校に頼らない地域と子どもたちの活動が増えるといいと思います。その活動では、コーディネーターさんが大きな役割を果たすことができると思います。</p>
古川委員	<p>(全) 報告書案に賛成です。</p> <p>(2) 小中一貫校について 方向性については、問題ないと思います。 報告書の中で、どこまで示せるかという問題もありますが、人口動向や都市計画マスタープランを見据えた上で学校をどうして行くのか考える必要があると思います。 小中一貫校となると、市内他地区から越境をどうするのか、スクールバスを通わせるのかであるとか、そういうような細かな話は、後々の話となってくると思います。</p> <p>(3) 施設等の共有化・複合化について 児童クラブが足りない状況があります。できる限り、空き教室を活用した児童クラブの設置を考えていければと思います。授業が終わった後も移動が少なく済む学校の空き教室を活用した学校の複合化を今後も検討していただきたいです。 少子化を見据えて、プールの共有化の検討を続けていただきたいです。</p> <p>(4) これからの学校・学校と学校・学校と地域のあり方について 学校運営協議会を中心とした地域のボランティアの取組は素晴らしいものであると思います。しかし、市民の目線から見たとき、あまり知られていないのではないかと危惧するものです。こんないい取組をしているので、学校を中心としたボランティアの取組に、ぜひ市民の参加を促すことができるような周知をあま市からもした方が良くはないかと思えます。</p> <p>(6) 働く場としての学校 学校では、年々様々な問題が出てきます。近年話題になっているものでは、ヤングケアラー、医療的ケア児の問題もあります。学校現場の負担が相当増えてきていると理解しています。来年の4月1日に子ども家庭センターを設立します。子どもに関する事柄を横断的に取り扱う部署となり、教育との連携も必要になってきます。子ども家庭センターでどのような連携を取っていくのか、スクールソーシャルワーカーを活用したり、スクールサポーターを充実したりして、現場の負担を少しでも減少させられればと考えます。</p>
山田委員長	<p>人口動向、児童クラブ、プールの共有化など、本会で意見をいただいた問題でもあります。 学校運営協議会と地域ボランティアの良さをもっと市民に広げたほうが良いということ。</p>

	<p>来年度に子ども家庭センターができるとのことですが、もう少しこの件でご意見いただけますか。</p>
古川委員	<p>子ども家庭センターは、子どもを出産した時に、どのようなお困りごとがあるのか、育児に困っている場合、どのような対応をしたらよいのか、保育園に預けるべきなのか、幼稚園に通わせるのか認定こども園に通わせるのかの相談、お子様に障がいがある場合、どのような対応をしていったらよいのかなど、幅広く窓口を一本化するものです。</p> <p>今まででは、縦割りでした。子育て相談であれば、子育ての部署、障がいであれば障がいの部署、保育であれば保育の部署と別々であったものを、窓口を一本化することにより、市民から分かりやすい子育て環境の支援を行うものです。</p>
室田委員	<p>報告書のまとめ方について意見させていただきます。</p> <p>意見を申し上げる前に、2点質問をさせていただきます。</p> <p>報告書は、教育委員会に提出されるものですが、その報告書は一般公開するのですか。</p> <p>また、資料編として今までのご意見がついていますが、このご意見も公開するのですか。</p>
教育総務課長	<p>報告書は、ホームページを通じて広く市民に公開することを考えています。</p> <p>資料編についてですが、報告書の作り方も今回ご意見いただければと考えています。今までいただいたご意見の一覧ですが、つけてもいいし、つけなくてもいいと考えています。ご意見いただくためにも、今回つけさせていただいた部分もあります。</p>
室田委員	<p>(全) 一般的に、各種委員会の報告書を見ると、今回の案のように資料編の方が分量的にあまりにも大きいものは無いと思います。</p> <p>会議録に等しいレベルの今までのご意見を並べるのは、どうかと思います。</p> <p>公開されるのでしたら、一般の方が見たときに分かりやすいものとした方が良いと思います。特に課題の設定について分かりにくいと感じました。</p> <p>どんな課題があって、どんな議論がなされ、結果としてこのような意見となりましたというような構成とした方が良いのではないかと思います。</p> <p>報告書を見ながら、事務局から説明を聞けば分かると思うのですが、報告書を見ただけでは、なぜこのような意見になったのかということが分かりにくいと感じました。</p> <p>例えば、委員会で出た小規模校と大規模校のメリットとデメリットを列記して、結果として特色ある学校運営を支援することとなったという形をとったほうが分かりやすいのではないと考えました。</p>

山田委員長	<p>この委員会は、結論を出す委員会ではないので、出た意見を報告するという形が良いとは思いますが。最後のページの案だけ見ると、結論っぽく見えますね。</p> <p>こういう課題があって、このような意見をいただいたという形が良いかと思えます。結論めいて見えるのは、良くないと思えます。</p> <p>資料だけでは、個々の意見が大量にあるだけなので、読まれることはないでしょう。</p> <p>今後、この意見をもとに検討していくという形ですね。</p>
山本委員	<p>(全)</p> <p>少子化がすごいスピードで進んでいることを実感しています。今生まれた子どもが小学校に入る6年後には、学校でも少子化を今よりももっと感じられるのではないかと思います。</p> <p>今から少子化を踏まえて先を見据えた学校のあり方を考えていくべきであると感じました。</p> <p>(3) 施設等の共有化・複合化について</p> <p>それに伴って、施設の共有化は避けられない課題であると思えますし、子どもたちにとって、何を共有していくのが良いのか、何を学校に残していくのが良いのか考えていく必要があると思えます。</p>
教育長	<p>溝口委員から飛島村の小中一貫校の件について、義務教育学校ができる前に小中一貫校ができたとお話がありましたが、そのことで補足説明をさせていただこうと思えます。</p> <p>記憶が確かならばですが、見た目上では小中一貫校が先にできて、その後義務教育学校ができたとなっていますが、当時は義務教育学校をつくる法整備がなされていなかったと記憶しています。当時の飛島村は義務教育学校を作りたかったのだけれども、まだ法整備がなされていなかったので、まず小中一貫校を作り、その後義務教育学校としたとのことでした。</p> <p>もちろん、ステップを踏んだ方が良いということであれば、その方法もよいでしょうが、飛島村がステップを踏むために小中一貫校を先に作ったわけではないということは、お伝えしようと思えます。</p>
山田委員長	<p>私からは、皆さんからあまり出てきていなかった意見を申し上げようと思えます。</p> <p>(4) これからの学校・学校と学校・学校と地域のあり方について特別支援についてご意見を述べようと思えます。</p> <p>不登校の子たちの話はよく出るのですが、発達障害の子たちについては、一般的にはあまり議論されていないように感じています。発達障害の子は、8.8%と大きく在籍しているとあります。この発達障害の子らから波及して、学級崩壊が起きたりなど、特に小学校では苦慮している現状があると思えます。</p> <p>発達障害の子らが自分を活かせるような学校の中の部屋があると良いと思えます。例えば、ひとりで勉強できるようなスタディールームがある</p>

だとか、気持ちをほぐすプレイルームがあるだとか、そういった発想がこれからは必要になるのではないかと思います。

学校の中で、取り出し授業を行ったり、支援員をつけるといったことも重要ですが、その子を活かせるような場の設定であるとか、環境整備もあると思います。

子どもたちのコミュニケーション能力が弱くなってきていることを心配します。それが不登校の原因の一つとなってきました。コミュニケーション能力を成長させていくためには、学校と地域の関わりであったりと、子ども本人の関わりを増やしていくような体験活動が大切であると思います。

#### (5) ICT利活用について

授業中に回りがザワザワして落ち着けない場合には、パソコンからイヤホンで音を聞いて、自分だけの世界に入ることができるだとか、障がいに応じた対応が必要で、ICT活用のところで発達障害の子らの障がいに応じた使い方について含められたら良いなと思います。

一斉授業が不得意で、ひとりでやっていきたいという子もいると思いますが、そういう子がICTを使いながら個別に学習していくであるとか、発達障害について触れていけると良いかなと思います。

不登校の子についても同様で、適応指導教室はありますが、地域でも生きて行けるような、子どもたちが自分の良さ、肯定感を高められるようなプラスに、主体的に活躍できるようなICTを活用した取組があると良いと思います。例えば、家であったり、市の施設であったりで学校の授業をオンラインで受けられるであるとか、イーラーニングでどんどん自分のペースで学習できるであるとかです。

このような取組は今後、どんどん進んでいくと思われ、学習指導要領についても、学校に来ている子だけの学習指導要領ではなくて、そうでない子どもたちにも学習する権利はあるので、そこにも踏み込んでどうかと文部科学省でも議論となっています。

そうしたとき、ICT利活用は、効果が大きいと思います。

先生だけが使うのではなく、子どもたちも使うようにシフトしていくことが重要です。

また、データの利活用も重要です。小学校入学から中学校卒業まで、データを残し、このデータを活用することが必要です。

この子はこんな風な考えで成長してきたであるとか、この子は中学校に入ってこんな成長を見せたであるとかを、先生はもちろん活用するのですが、子どもたちが自分を振り返って、こんな成長があったということを感じることができるとキャリアにつながるのではないかと思います。

今後は、データの利活用を意識すると良いと思います。

一つの例としては、子どもたちが毎日、自身でその時の気持ちを記録するだとかです。よく、天気例えて今日の状態を記録する取り組みがありますよね。

生活記録でノートに書いていることを全てタブレット端末で記録するであるとか。そうすれば、自分の変化が分かりますし、先生もそれを見

	<p>て、子どもたちの状態を知ることができます。</p> <p>これからは、学習外での活用についてが大きくなっていくのではないかと思います。</p> <p>オンラインを使えば、離れた学校とも一緒に学習することができます。</p> <p>学習のスタイルが変わっていかないと、不登校の子や発達障害の子たちが個別最適な学びを実現していきませんが、通常の学級にいる子どもたちも、それぞれに個々の状態がありますから、個々の状態に応じた学習形態を作っていこうとすると、ICTは大きな意味を持つてくると思います。</p> <p>(6) 働く場としての学校</p> <p>教職員の働き方改革については、大変な問題です。市の支援がないと進められません。特に中学校の部活動の問題について。アウトソーシングがこれから大きなポイントになってくると思います。</p>
山田委員長	ありがとうございました。
山田委員長	追加でご意見を発表されたい方、ご質問がある方はいらっしゃいますか。
山田委員長	最後に、教育長から感想やご意見があればどうぞ。
教育長	<p>貴重なご意見をありがとうございました。</p> <p>報告書のまとめ方について、決定したかのような表現だと、誤解を招くと思われまますので、表現の仕方等、本日いただいたご意見も含めて修正していければと思います。</p>
山田委員長	全体を通して、委員の方々からご意見や、質問がありますか。
山田委員長	<p>次期学習指導要領の作成に当たり、文部科学省では、ウェルビーイングという言葉が出てきました。日本語に訳しづらい言葉です。文部科学省では珍しく外国語のままの語です。幸せとは異なります。幸せとは、短期間の感情的なものなのですが、ウェルビーイングは持続して良い状態にあるということです。</p> <p>ウェルビーイングは、個人としての幸せな状態も言いますが、集団として仲間としての幸せな状態も表し、その状態が持続している状態をいいます。</p> <p>学級の中のウェルビーイング、学校のウェルビーイング、地域のウェルビーイング、市としてのウェルビーイングと広がります。大きな一つの狙いとして、共生する、皆の幸せな状態が持続することがあります。</p> <p>大きな範囲でのウェルビーイングにつながる報告書となると良いと思います。</p>
山田委員	以上で、本日の議題を全て終了しました。

	事務局に進行をお返しします。
教育総務課長	委員の皆さま、ご意見をありがとうございました。 続いてその他1点目として次回の日程及び内容について、ご説明いたします。
書記	ご説明します。 次回の第6回委員会については、 令和5年9月28日(木)10時から 場所は、今回と同じあま市役所2階ですが、会議室が今回と異なって隣のE会議室となります。  第6回委員会では、今回いただいたご意見を反映させた報告書案についてご提示し、報告書としての完成を予定しております。  報告書案が完成しだい、皆様にメールでお送りしますので、委員会を待たずしてご意見のある場合は、お知らせいただき、その分も反映させた報告書案を次回委員会にご提示できればと思います。
教育総務課長	委員の皆さま、他にございますか。
教育総務課長	本日はお疲れさまでした。 本日の会議の概要をまとめた議事録を作成しだいまま市ホームページで公開します。  次回、またよろしく申し上げます。  【閉会時刻 午後11時15分】